



きょうりゅう

恐竜 は日本にもいたの

日本にも 恐竜 はいろいろいた

日本で正式に発見された最初の恐竜の化石は、1978年、岩手県岩泉町で発見された、ディプロドクスの仲間モシリユウの前足でした。1979年には、熊本県で肉食恐竜メガロサウルスの仲間の歯が見つかり、ミフネリュウと名づけられました。その後も、石川県の女子中学生が発見したメガロサウルスの仲間カガリュウの歯、福井県で発見されたイグアノドン of 仲間フクイリュウの歯、上あごの骨、徳島県でイグアノドンの仲間の歯、北海道でハドロサウルスの大たい骨や、ノドサウルスの頭骨、歯など、日本各地で化石が見つっています。

日本には、恐竜時代の地層があちこちにある

恐竜が生きていたのは、2億2000万年～6500万年前ごろでした。日本には、1億4000万年前ごろの地層が各地にあり、ここからは、まだ見つからない恐竜の骨がたくさん発見されるかもしれません。このころの日本は、まだ一部がアジア大陸とつながり、日本海はまだなく、ほとんどが浅い海の底で、今のような島の形はしていませんでした。

恐竜のいた証拠は骨の化石だけではない

恐竜が日本のあちこちで元気に動き回っていた証拠は、骨の化石以外にもあります。恐竜が活動していたころは、湿地やぬま地だった所に、恐竜が歩いた足あとが残り、その足あとがそのまま化石になってしまったものが、最近発見されたのです。山口県下関市や富山県で見つかったものは、肉食恐竜と草食恐竜の足あとが、入りまじっていました。石川県や福井県、岐阜県、熊本県などでも、恐竜の足あとが見つっています。(監修・今泉 忠明)

